

d) N-4.1

(a) 維管束植物

N-4.1 の影響範囲 50m 内における貴重な維管束植物の確認地点数及び株数を表 6.1.3-33 に示した。また、各調査の確認位置を図 6.1.3-48 に示した。

最終調査時で確認された貴重種は、20 種 143 地点 406 株であった。

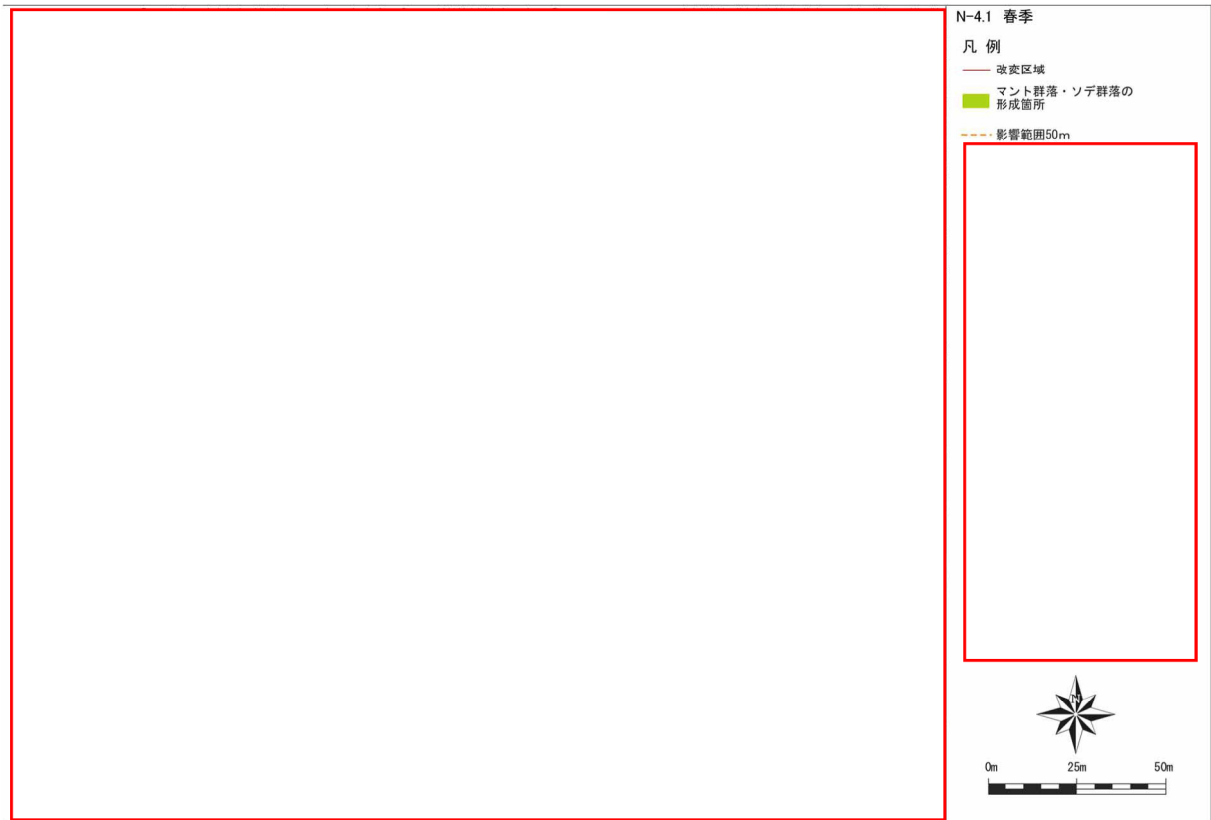
主な生育地を林内、樹幹、草地、水溜、沢沿いに区分すると、林内で最も多くの種が生育しており、 や 等の 15 種を確認した。草地(水溜まり含む)では、 と の 2 種、樹幹では
 と の 2 種、沢沿いでは の 1 種を確認した。

N-4.1 は、平成 30 年夏季に調査を終了した。

表 6.1.3-33 貴重な維管束植物の確認地点数・株数・主な生育環境(N-4.1)

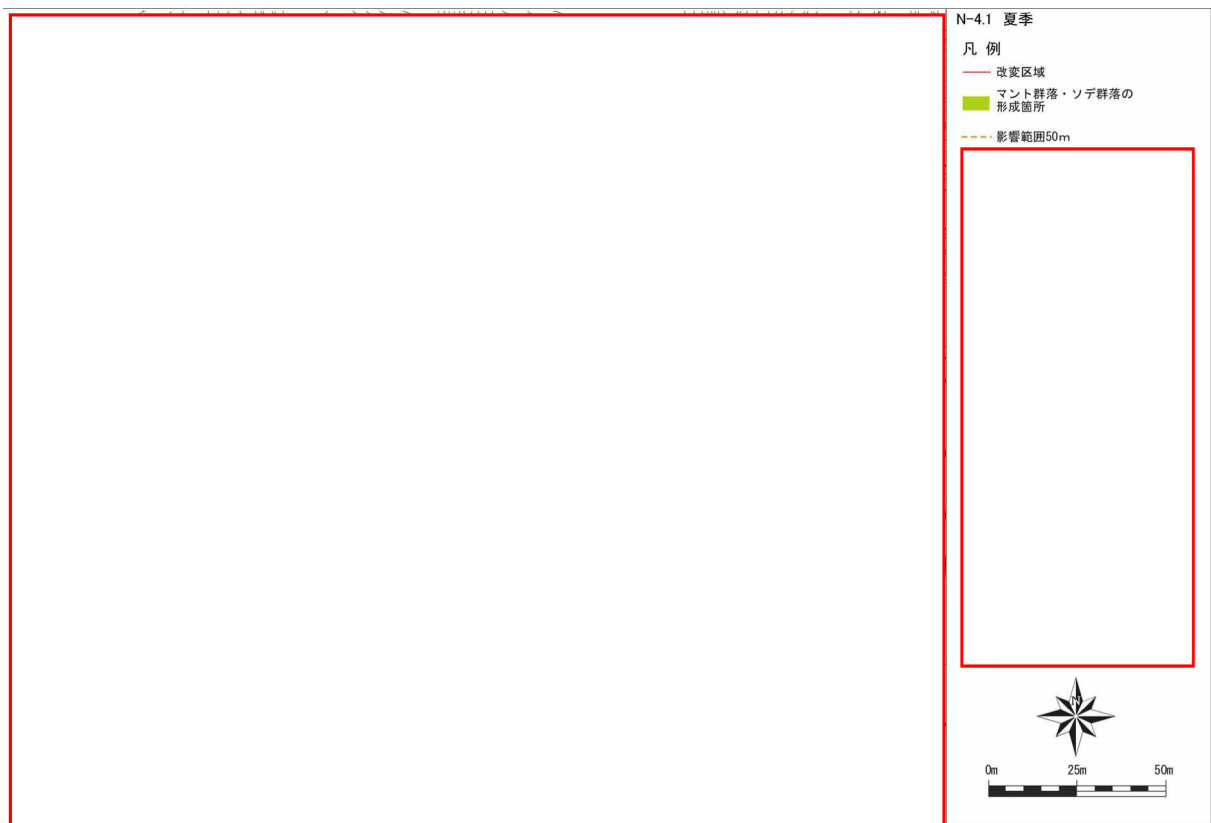
No.	科名	種名	学名	平成30年度				貴重種 ^{注)}		主な生育地
				存在時・供用時				環境省 RL	沖縄県 RDB	
				春季		夏季				
				H30年 4~5月		H30年 7月				
				地点数	株数	地点数	株数			
1				1	3	1	3	NT		樹幹
2				1	1	1	1	NT		林内
3				8	20	8	21	VU		林内
4				2	12	2	12	CR	CR	林内
5				13	14	13	14	VU		林内
6				1	1	1	1	CR	EN	林内
7				3	3	3	3	VU		林内
8				22	22	21	21	EN	VU	林内
9				1	2	1	3	NT	NT	沢沿い
10				1	51	1	49		NT	草地水溜
11				1	1	1	1	CR	EN	林内
12				1	1	1	1	CR		林内
13				4	37	4	33	VU	VU	林内
14				21	49	23	54	VU	VU	林内
15				21	66	20	65	NT		林内
16				10	70	10	63	VU	VU	樹幹
17				4	5	8	10	EN	VU	草地
18				11	12	11	12	VU	EN	林内
19				12	37	11	32	VU	EN	林内
20				3	4	2	7	EN	VU	林内
計	9科	20種		141	411	143	406	19	13	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.1.3-26 を参照。



注) 図中の数字は確認株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-48(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.1:平成 30 年度春季)



注) 図中の数字は確認株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-48(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.1:平成 30 年度夏季)

(b) 蘚苔類

N-4.1の影響範囲50m内で確認された貴重な蘚苔類の確認地点数を表6.1.3-34、確認位置を図6.1.3-49に示した。

最終調査時で確認された貴重な蘚苔類は、3科3種15地点で、季節的な変動はみられなかった。

表 6.1.3-34 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境(N-4.1)

No.	科名	種名	学名	平成30年度		貴重種 ^{注)}		主な生育地
				存在・供用時		環境省 RL	沖縄県 RDB	
				春季	夏季			
				H30年 4~5月	H30年 7月			
						地点数	地点数	
1				9	10		CR+EN	空中湿度の高い林内、溪流沿いの樹幹上
2				2	2	NT		暖地の林内の岩や腐木の上
3				3	3	NT		湿った林内の腐木・岩・土上
計	3科		3種	14	15			-

注) 貴重種のカテゴリについては、表6.1.3-26を参照。

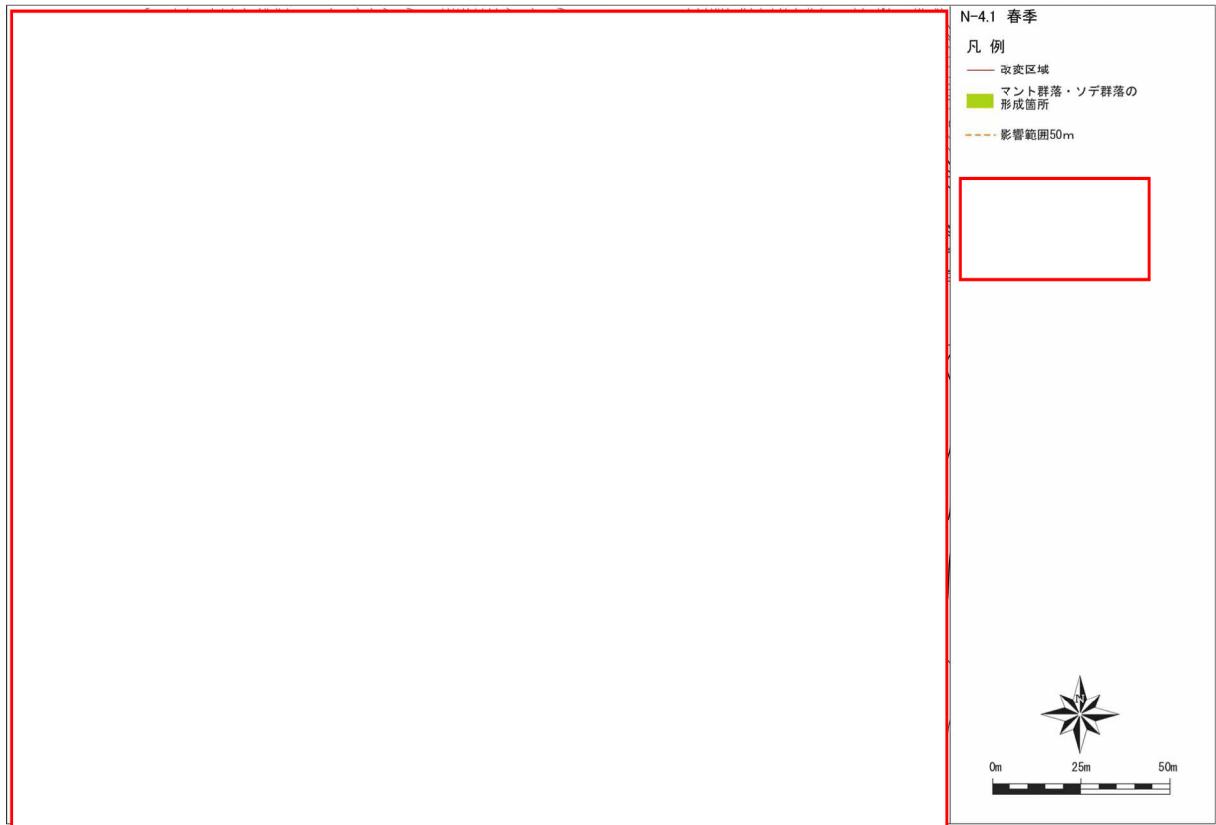


図 6.1.3-49(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(N-4.1:平成 30 年度春季)

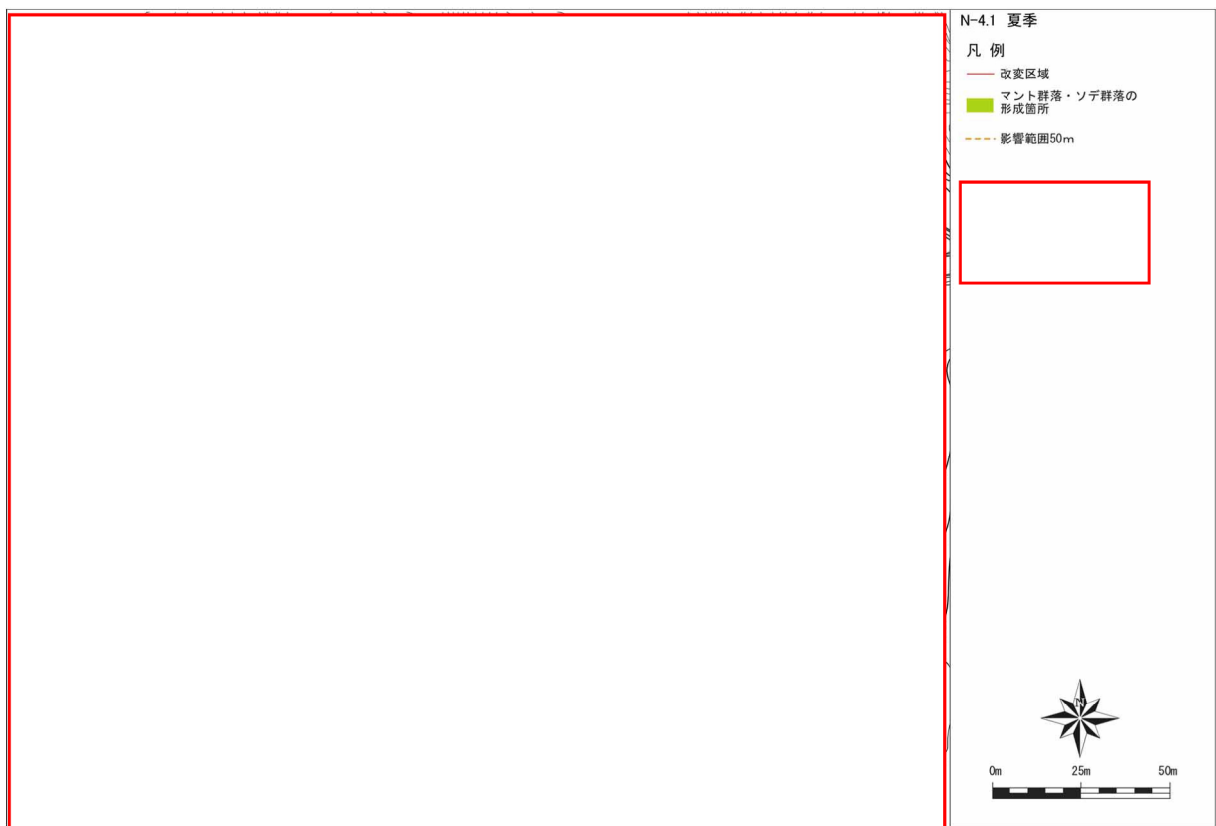


図 6.1.3-49(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(N-4.1:平成 30 年度夏季)

(c) 植生断面図

平成 30 年度の最終調査における N-4.1 植生断面模式図の南北方向を図 6.1.3-50 に、東西方向を図 6.1.3-51 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

N-4.1 は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林及び草地環境が広がっている。

北側は、着陸帯辺縁部にある道路を挟み、着陸帯中心から約 65m 付近まで傾斜地が続き、約 80m 付近は谷部となっており、スダジイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-イスノキ群落、イジユ-イスノキ群落の森林環境となっている。

南側は、着陸帯辺縁部から谷部傾斜地となっており、リュウキュウマツ-リュウキュウチク群落、スダジイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-イスノキ群落の森林環境となっている。

東側は、平坦な尾根部となっており、林縁部からリュウキュウチク群落、リュウキュウマツ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

西側は、着陸帯辺縁部から約 40m 付近で谷部となっており、谷部から約 55m 付近まで傾斜地が続く。それ以降は平坦部で、リュウキュウマツ-ススキ群落、スダジイ-リュウキュウチク群落、リュウキュウマツ-リュウキュウチク群落の森林環境、リュウキュウマツ群落の低木林環境となっている。

N-4.1 夏季調査

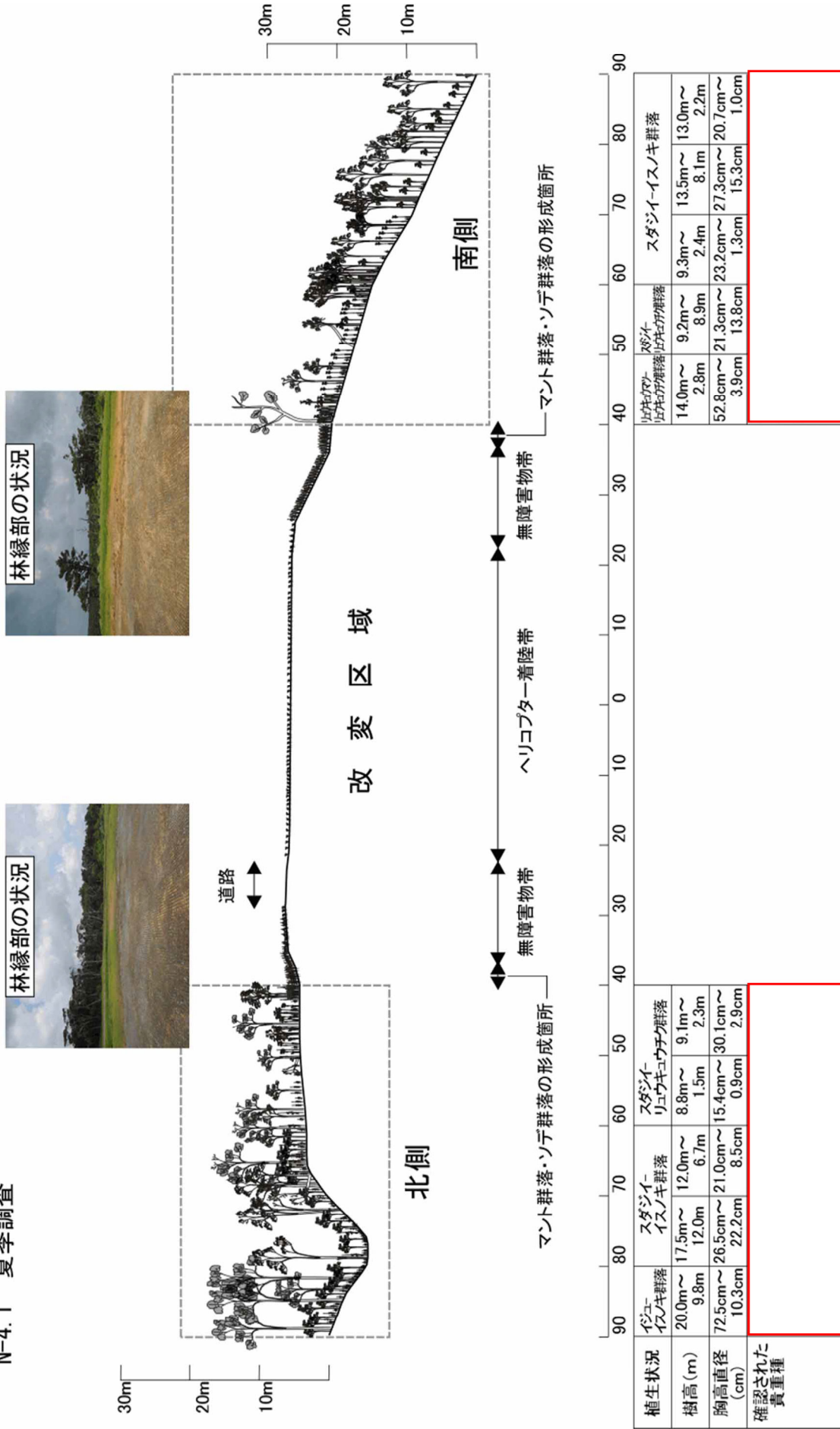
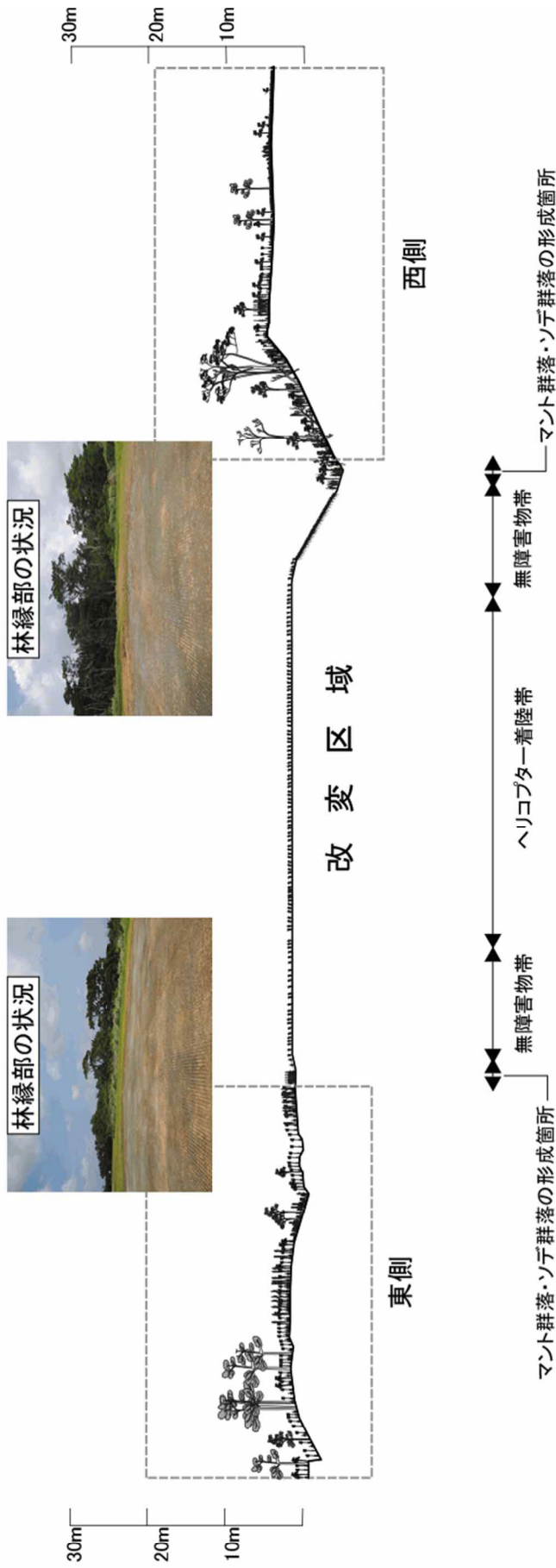


図 6.1.3-50 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (北側-南側) (N-4.1) 平成 30 年度夏季

N-4.1 夏季調査



植生状況	リュウキュウマツ リュウキュウ子群落		リュウキュウウチク群落		リュウキュウアツ リュウキュウ子群落		リュウキュウアツ 群落		リュウキュウアツ 群落	
	10.1m~ 4.4m	8.8m~ 7.9m	-	5.1m~ 3.5m	6.6m~ 5.3m	12.0m~ 4.9m	13.1cm~ 7.0cm	5.5m~ 5.2m	14.2cm~ 11.4m	-
樹高(m)	35.1cm~ 7.0cm	33.0cm~ 26.9cm	-	10.5cm~ 6.0cm	13.1cm~ 5.9cm	63.0cm~ 12.0cm	13.1cm~ 5.9cm	14.2cm~ 11.4m	14.2cm~ 11.4m	-
胸高直径 (cm)	確認された 貴重種									

図 6.1.3-51 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側-西側) (N-4.1) 平成 30 年度夏季

e) N-4.2

(a) 維管束植物

N-4.2 の影響範囲 50m 内における貴重な維管束植物の確認地点数及び株数を表 6.1.3-35 に示した。また、各調査の確認位置を図 6.1.3-52 に示した。

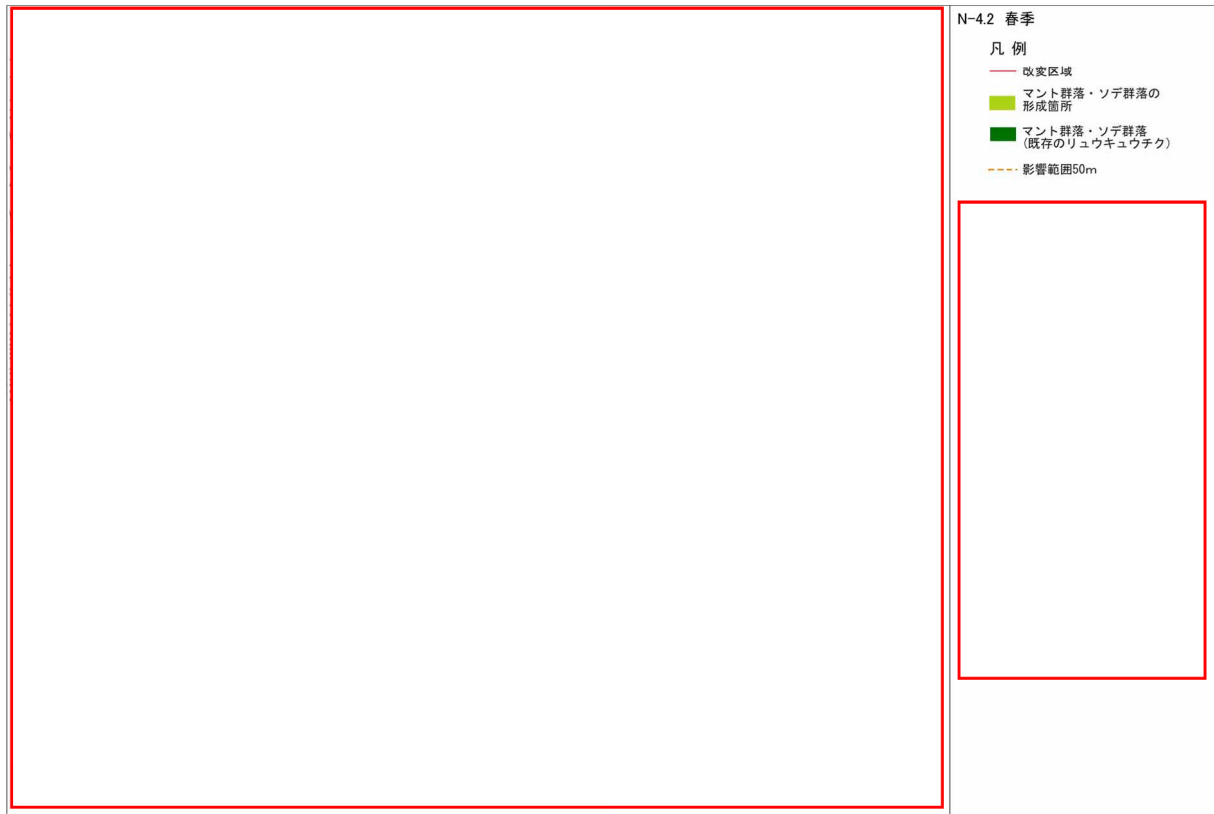
最終調査時に確認された貴重種は、19 種 124 地点 295 株であった。

主な生育地を林内、樹幹、草地、沢沿いに区分すると、林内では最も多くの種が生育しており、や等の 16 種を確認した。草地ではの 1 種、樹幹ではとの 2 種、沢沿いではとの 2 種を確認した。

表 6.1.3-35 貴重な維管束植物の確認地点数・株数・主な生育環境(N-4.2)

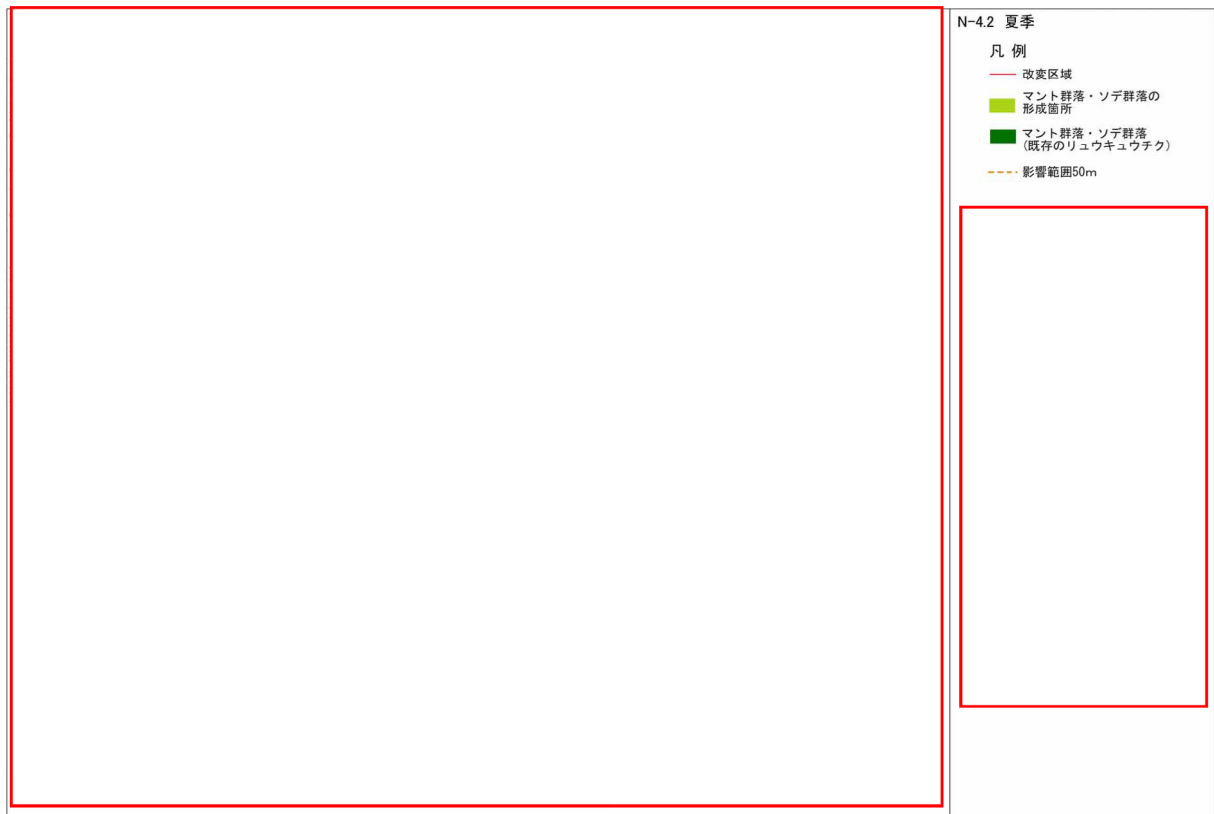
No.	科名	種名	学名	平成30年度				貴重種 ^{注)}		主な生育地
				存在・供用時				環境省 RL	沖縄県 RDB	
				春季		夏季				
				H30年 4~5月		H30年 7月		地点数	株数	
1				4	17	4	17			NT
2				2	3	2	4	VU		林内
3				1	1	1	1	VU		林内
4				12	15	13	16	VU		林内
5				3	3	3	3	VU		林内
6				23	32	23	33	EN	VU	林内
7				1	2	1	3	NT	NT	沢沿い
8				1	3				CR	林内
9				1	1	1	1	CR	EN	林内
10				4	37	4	33	VU	VU	林内
11				13	15	15	19	VU	VU	林内
12				7	20	6	20	NT		林内
13				6	45	6	38	VU	VU	樹幹
14				1	1			VU	VU	林内
15				1	2	6	7	EN	VU	草地
16				11	43	9	40	EN	VU	沢沿い
17						2	18	EN	EN	林内
18				18	20	20	23	VU	EN	林内
19				4	11	4	12	VU	EN	林内
20						3	6	EN	VU	林内
21						1	1	NT	VU	林内
計	9科	21種		113	271	124	295	20	15	-

注) 貴重種のカテゴリーについては、表 6.1.3-26 を参照。



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-52(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.2:平成 30 年度春季)



注) 図中の数字は株数を示し、1株の表記は省略した。

図 6.1.3-52(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な維管束植物 (N-4.2:平成 30 年度夏季)

(b) 蘚苔類

N-4.2の影響範囲50m内で確認された貴重な蘚苔類の確認地点数を表6.1.3-36、確認位置を図6.1.3-53に示した。

最終調査時に確認された貴重な蘚苔類は、4科4種9地点で確認され、季節的な変動はみられなかった。

表 6.1.3-36 貴重な蘚苔類の確認地点数・主な生育環境(N-4.2)

No.	科名	種名	学名	平成30年度		貴重種 ^{注)}		主な生育地
				存在・供用時		環境省 RL	沖縄県 RDB	
				春季	夏季			
				H30年 5月	H30年 7月	地点数	地点数	
1				1	1	NT	NT	湿った林床の岩上(主に砂岩)や粘土質の土上
2				1	1	VU	VU	山地の溪流沿いの岩上や土上
3				4	4	NT		湿った林内の腐木・岩・土上
4				3	3	NT		空中湿度の高い溪谷で、常緑樹やシダ類の生きている葉の上
計	4科	4種		9	9	4	2	-

注) 貴重種のカテゴリについては、表 6.1.3-26 を参照。

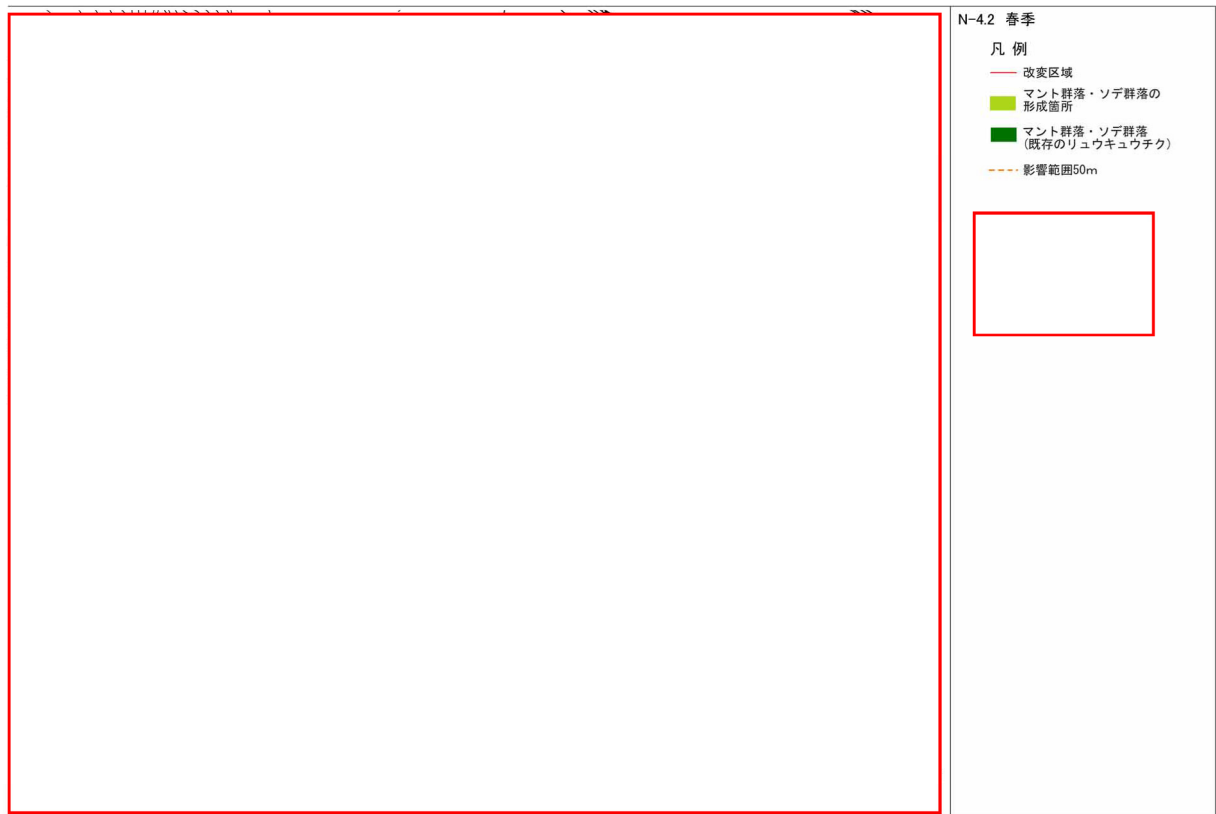


図 6.1.3-53(1) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類 (N-4.2:平成 30 年度春季)

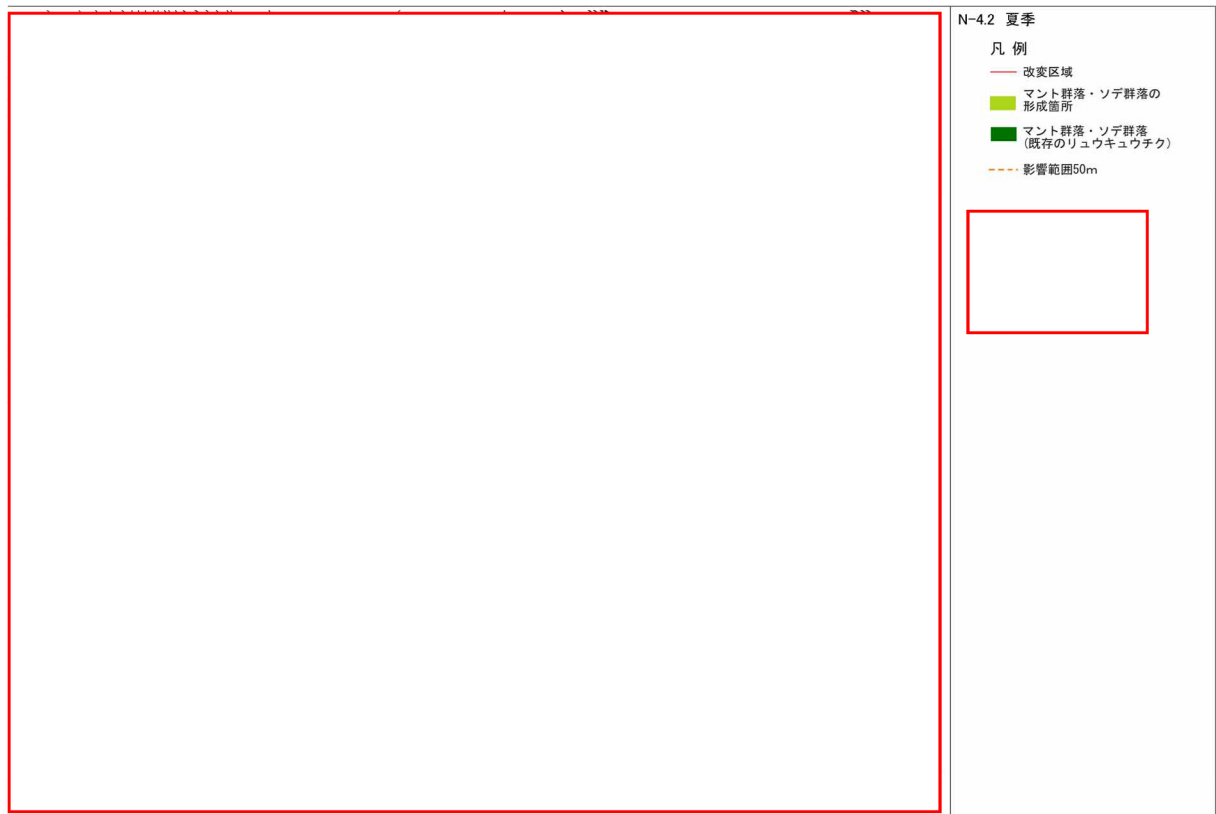


図 6.1.3-53(2) 影響範囲 50m 内で確認した貴重な蘚苔類(N-4.2:平成 30 年度夏季)

(c) 植生断面図

平成 30 年度の最終調査における N-4.2 の南北方向の植生断面図を図 6.1.3-54 に、東西方向の植生断面図を図 6.1.3-55 に示し、林縁部の状況写真(着陸帯中央部から撮影)を添付した。

N-4.2 は、尾根部に着陸帯があり、周囲は森林及び草地環境が広がっている。

北側は、開けた平坦部となっており、路傍・空地雑草群落の草地環境となっている。

南側は、北側と同様に開けた平坦部で、着陸帯辺縁部から路傍・空地雑草群落の草地環境、着陸帯中心部から約 80m 付近より、リュウキュウマツ-リュウキュウチク群落の森林環境となっている。

東側は、着陸帯中心から約 70m 付近で谷部となっており、スダジイ-リュウキュウチク群落、フカノキ-イスノキ群落、スダジイ-イスノキ群落の森林環境となっている。

西側は、着陸帯中心から約 35m 付近まで傾斜地、そこからしばらく平坦部が続く、約 60m 付近から再び傾斜地となっており、スダジイ-リュウキュウチク群落、スダジイ-クロヘゴ群落、スダジイ-イスノキ群落の森林環境となっている。

N-4.2 夏季調査

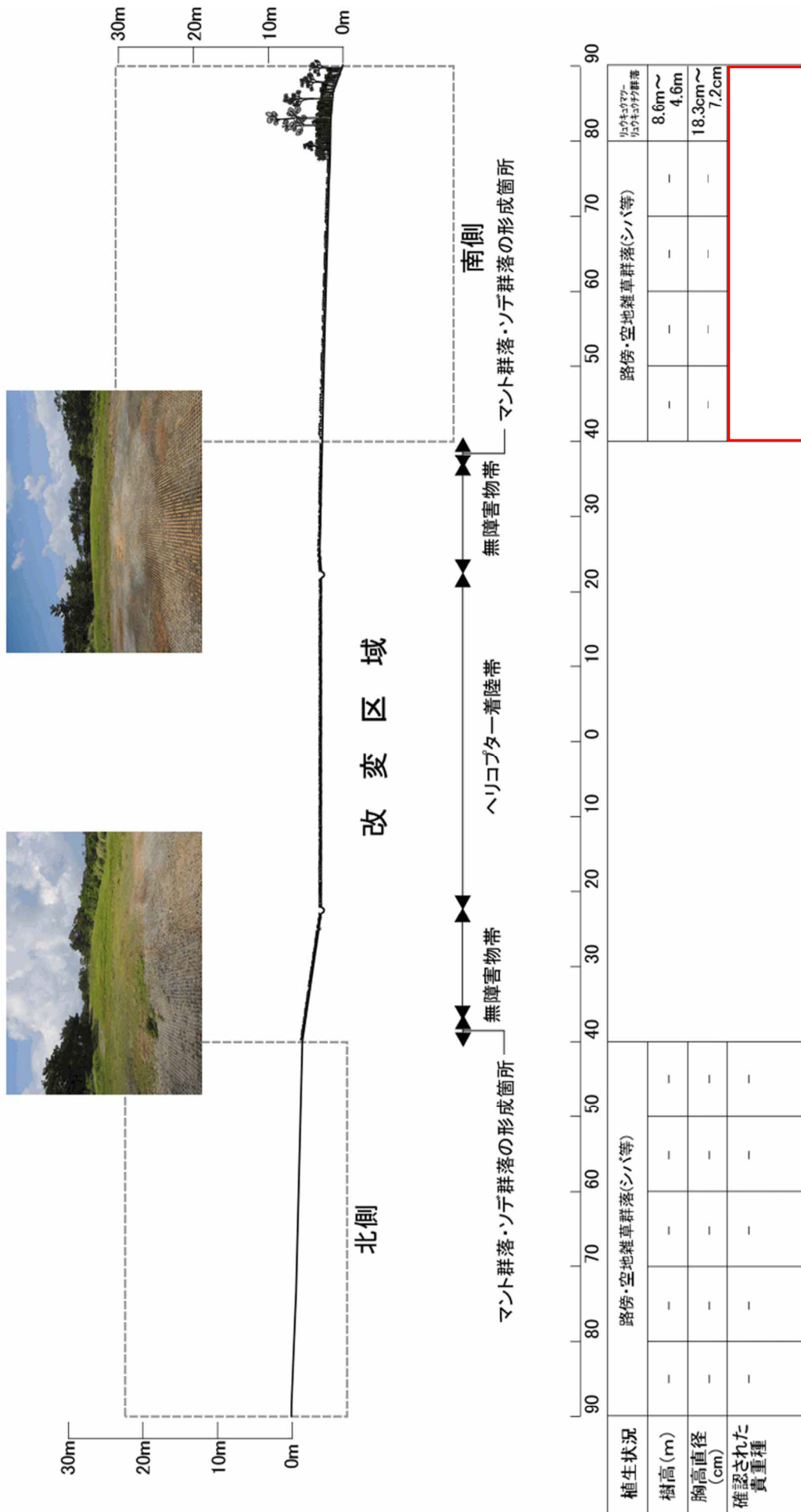


図 6.1.3-54 影響範囲 50m 内の植生断面模式図(北側-南側) (N-4.2) 平成 30 年度夏季

N-4.2 夏季調査

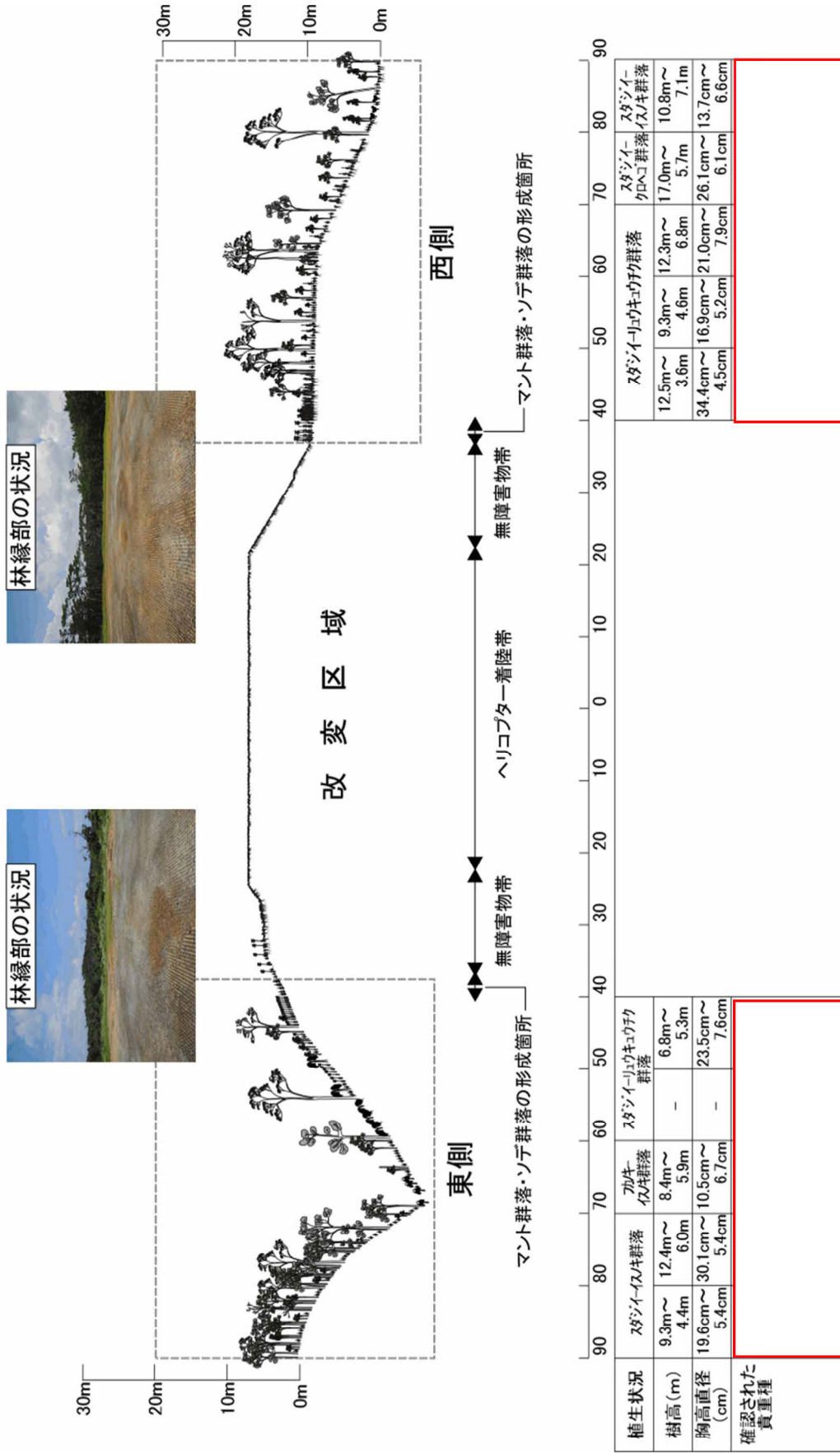


図 6.1.3-55 影響範囲 50m 内の植生断面模式図 (東側-西側) (N-4.2) 平成 30 年度 冬季